

患者さんを支える医療技術開発者の支援

- ワークショップ「医療事故予防のための医療機器、医薬品および医療情報システムの連携」(7月25日)の開催にあたり

<http://www.jsrmpm.org/Workshop/e-work01.htm>

学会理事長 酒井亮二

日本における医療事故予防の向上のために、医療機器、医薬品および医療情報システムの連携を目指す本ワークショップは、日本で最初の大規模な集会です。ワークショップの開催には、日本人間工学会大久保堯夫会長および日本医療情報学会田中博会長の大賛同を頂き、両学会と合同で開催する運びとなりました。また、本年4月に新設されました独立行政法人医薬品医療機器総合機構ならびに厚生労働省医政局総務課医療安全推進室から官庁講演をいただけます。更には、日本製薬団体連合会および日本医療機材工業会からそれぞれの安全研究の最新動向のご発表をいただけることになりました。これらの関係諸機関は医療の安全技術の向上に携わる日本国内の最高責任機関で、かつそのすべてです。従って、このワークショップを通じて、1) 日本で進行している医療の安全技術のすべての最新動向が理解でき、かつ2) 各部門の連携にとってどのような新しい技術の開発が必要であるかが検討可能となります。

患者さんを取りまく環境づくりは医療従事者だけが行っているわけではありません。今日の診療では、特に上記の医療技術が患者さんの環境として大変重要であり、診療における医療技術開発が日々重要性を増しています。また、安全な医療技術開発を診療のトータルな場から見つめ直すという本ワークショップの視点は世界で最初の試みです。これらの理由から本ワークショップでは、今後どのような医療技術を開発すべきかのヒントを医療技術開発者に提供します。ご講演の先生各位も、趣旨の重大性からワークショップを今後も合同で開催することで合意しました。

質が高く、患者さんが十分安心して加療に専念できる医療を展開するには、医療技術開発者の方々の絶大な支援が不可欠です。医療技術開発者の方々の本ワークショップでの積極的な発言をお願いします。

なお、会場運営の都合により、参加ご予約の方は7月20日までにご申請ください。